

～令和2年産水稻は重点事項を実行し、高品質安定生産を！！～

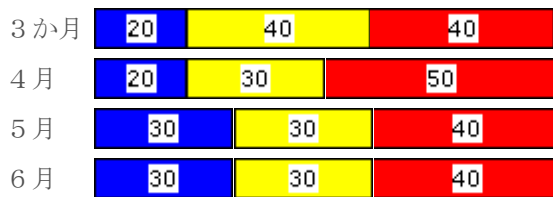
1 令和2年の気象予報(仙台管区气象台)

(1) 3か月予報(3月25日発表)

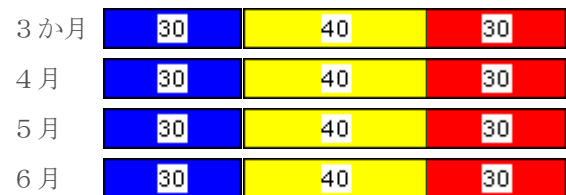
- 4月：天気は数日の周期で変わり、気温は高い確率50%、降水量は並の確率40%
- 5月：天気は数日の周期で変わり、気温は高い確率40%並、降水量並の確率40%
- 6月：期間の前半は周期的に変わり後半は平年同様曇りや雨の日が多い。

[3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)]

気温(東北)



降水量(東北)



(2) 1か月予報(3月28日～4月27日:3月26日発表)

※特に注意を要する事項:期間の前半は気温が高くなる見込み

- ・天気は数日の周期で変わり、晴れの日が多い見込み
- ・平均気温は高い確率50%、1週目は高い確率60%、2週目は高い確率30%、3～4週目は高い確率40%



[1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)]

■ 1か月予報:毎週木曜日

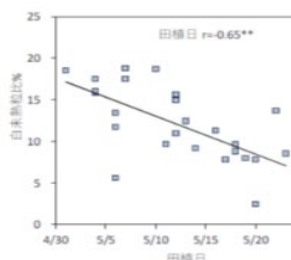
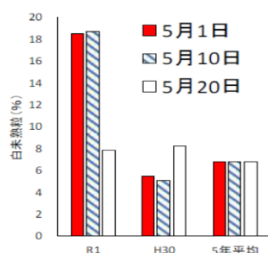
■ 3か月予報:3月25日(水)

凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

2 重点事項

(1) 晩期栽培の取組拡大によるリスク分散と品質向上

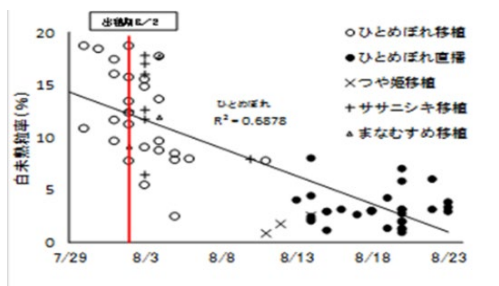
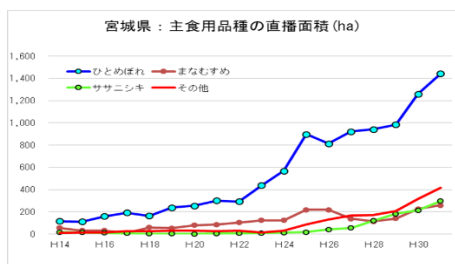
- ・晩期栽培の取組拡大(目標 平坦50%) → 高温登熟回避, 障害不稔の軽減等
- ・適正な播種時期による晩期栽培の徹底 → 稚苗で5月始播種, 5月20～25日頃に田植



県	田植盛期	出穂盛期	刈取盛期
宮城県	5月11日	8月2日	9月28日
青森県	5月20日	8月4日	9月30日
岩手県	5月17日	8月4日	10月3日
秋田県	5月22日	8月2日	9月30日
山形県	5月18日	8月4日	9月30日
福島県	5月16日	8月9日	10月8日

(2) 直播栽培の推進と品種構成の見直しによる品質向上

- ・ 直播栽培の取組のさらなる拡大 ➡ 主食用で全体面積の5%を直播栽培へ
- ・ 晩生品種の作付拡大 ➡ うるちで晩成品種割合15%



(3) 適正な生育量確保（茎数・穂数・籾）による品質向上

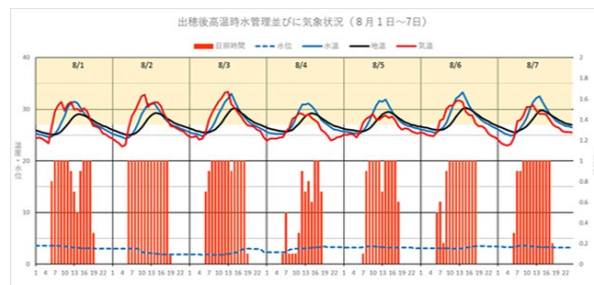
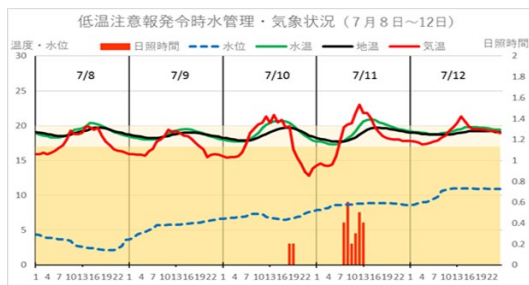
- ・ 生育初期における茎数の適正化 ➡ 施肥や水管理による制御
- ・ 適正な時期に中干し ➡ 目標茎数確保後速やかに中干しに入る。
- ・ 「ひとめぼれ」の適正籾数確保 ➡ m²当たり籾数2.8~3万粒のための肥培管理

項目	6月20日	7月1日	7月10日	7月20日
草丈・稈長 (cm)	32~34	45~48	56~59	66~69
茎数・穂数 (本/m ²)	310~360	460~520	470~530	450~500
葉緑素計値	41~44	40~42	38~40	35~37

項目	籾数 (千粒/m ²)	1穂籾数	穂数 (本/m ²)	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)
粒厚1.9mm以上	28~30	57~62	480~500	22.3	85~90

(4) 低温及び高温時の水管理

- ・ 危険期低温時深水（最低気温17℃, 平均気温20℃） ➡ 水稻生育周辺の温度上昇に有効
- ・ 登熟初期の高温時に保水等の水管理 ➡ 白未熟粒発生抑制で品質向上



(5) 品質向上に不可欠な土づくり [※乾田化で有機物が減少し地力低下]

- ・ 排水改良 ➡ 地耐力向上, 有害物質除去, 根の健全化
- ・ 土づくり肥料 ➡ ケイ酸質肥料, 燐酸質肥料等の補給
- ・ 有機物 ➡ 保肥力・膨軟性向上, 高温・冷害年の効果大
- ・ 物理性改善 ➡ 耕深目標15cm, 上下土層の反転 (プラウ耕, レベラー等)

収奪量 (ほ場から持ち出される量)
粗玄米重650kg/10aの場合

成分	成分量(kg/10a)		
	葉&茎	穂	合計
窒素	4.4	6.5	10.9
リン酸	2.1	4.0	6.1
加里	14.6	2.6	17.2

土壌タイプ	土づくり肥料		たい肥(注)
	ケイ酸質 (kg/10a)	リン酸質 (kg/10a)	(t/10a)
黒ボク土	120~160	60~120	1.0~1.5
灰色低地土	60~100	40~100	1.0~1.5
クライ土	80~100	40~100	1.0~1.2
黒泥・泥炭土	120~160	60~120	0.8~1.0

(注) 稲わらやもみがら主体たい肥の施用量。